

3万246筆の署名は 医師確保の願いと市民病院への期待

愛知県知事への「緊急に蒲郡市民病院の医師の確保を求める陳情署名」は、12月2日に市民病院を守る会の代表と、同道された足立副市長・大竹県会議員によって提出されました。県は、健康福祉部健康担当局長の五十里局長・舟橋次長・吉田技監が対応しました。

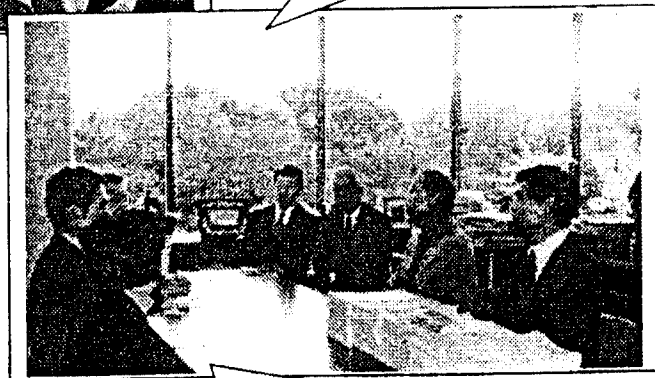
3万筆の署名は非常に重みのあるものと受け止めている。蒲郡は地域的に特殊なところ。県の有識者会議でも救急医療を堅持すべきだとの意見を伺っている。

このままでは市だけでなく、東三河全体の地域医療も崩壊してしまいます。地域医療を守るため、是非、医師を確保して欲しい。

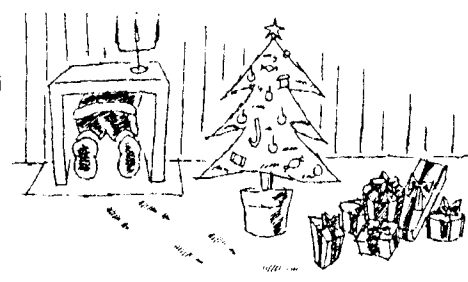
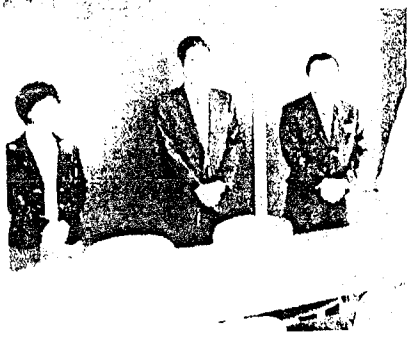
有識者会議で、今、県内で特に厳しいのが蒲郡市民と稲沢市民。4大学にも協力をお願いしたい。



3万の署名を集められたのは、市民の医療への危機感と、蒲郡市民病院への期待の現われだと思えます。県は、本当に必要とされているところに予算を使うべきです。



私どもとしては、一部統合を検討しているところもあります。知多と・・・など、そういう働きかけも、それはそれで連携の終着になるかもしれませんが、他の市民病院は何とか、いろいろと規模を縮小したりとか、見直しをしたりとかしながらでも、少なくとも救急は何とかやっていただけるようお願いしています。いずれにしても、蒲郡市民病院もできるだけ規模でしっかり維持ができるように何とか努力していきます。



12/6 付蒲郡新聞

知事に3万人の署名提出

守る会が4カ月で「市民病院に医師を」



てくれた会社経営者、懐家を回り集めてくれた住職もいた。これは市民病院を何とかしたい、医師確保に何か協力したいという熱意の現れ」と運動を振り返った。同病院は昨年十一月から消化器内科の休診、今年四月から分娩扱い数を制限するなど医師不足が顕在化している。東三河の三次医療を担う豊橋市民病院には蒲郡や新城、田原からの患者が急増している。二次医療を担う蒲郡市民病院が崩壊すると、広域的な医療体制に深刻な影響を与えることが懸念されている。

市民あげて地域医療を守ろうと八月から医師確保を求める署名活動を市内で進めてきた市民グループ「蒲郡市民病院を守る会」は二日、集まった三万二千四十六人分の署名を神田愛知県知事に提出した。この日は同グループのメンバー七人と足立副市長、大竹県議らが県の担当局長に署名を手渡し、「市民の願いをぜひ実現してほしい」と訴えた。

同会は「革新蒲郡まちづくり学校」代表世話人の清水芳雄さんが呼びかけ人となつて八月九日に発足、「医師確保を求める」署名運動と市民病院の医師や職員を励ます取り組みを行ってきた。市内の開業医をはじめ、大型店の店頭や商店街、クラフト・フェアなどのイベント会場などでも市民や来場者の協力を求めた。

清水さんは「こんなにたくさんさんの署名が集まるとは当初は予想していなかった。竹谷町の主婦は一人二百人分も集めてくれたり、一日で二百人分の署名を届け

蒲郡市民病院に医師派遣を要望

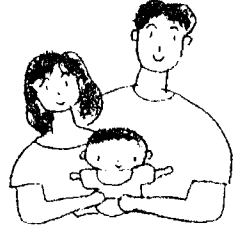
市民ら署名3万人分

医師不足などが深刻な蒲郡市民病院を支えようと、同市の市民団体「蒲郡市民病院を守る会」（清水芳卓代表世話人）が二日、蒲郡市の人口の4割弱に相当する市民ら3万人超の署名を県庁に提出し、同市民病院への医師の派遣を求めた。

同団体は、市内の元高校教諭、清水代表世話人（65）や市職員組合のメンバーらが8月に設立した。市内のスーパーなどで、11月末までに約30回の署名活動を続け、蒲郡市を中心に幸田町など周辺地域も含めて、集まった署名は3万246人に上った。

清水さんらは県庁を訪れ、「市民の切なる思い」として、健康福祉部の五十里明・健

12/3 付朝日新聞



康担当局長に署名を手渡した。五十里担当局長は「3万人は重い。（医師確保策を）しっかり検討し、支援できるものは支援したい」と答えた。清水さんは「署名活動を通じて、市民の切実な思いが伝わってきた。今後も市民病院の医師確保に結びつくような活動を続けたい」と話した。同市民病院は市内の中核病院。常勤医が06年度の49人から37人に減り、精神科や消化器内科が昨年からは休診を余儀なくされている。